

---

---

令和6年度 第4回練馬区子ども・子育て会議議事録

---

---

[日 時]

令和7年3月24日(月)午後6時30分から午後8時まで

[会 場]

練馬区役所本庁舎5階庁議室

[出席者]

小島委員、清水委員、瀬川委員、ティアコジュイモ委員、檜垣委員、小池委員、井上委員、桑田委員、重松委員、土田委員、濱田委員、尾形委員、有村委員、小櫃委員

(事務局)

こども家庭部長、こども施策企画課長、子育て支援課長、保育課長、保育計画調整課長、青少年課長、子ども家庭支援センター所長、在宅育児支援担当課長、学務課長

[欠席者]

鈴木委員

[傍聴者]

3名

[次第]

1 開会

2 議題

第3期練馬区子ども・子育て支援事業計画(案)について

3 その他

- 【会 長】 令和6年度第4回練馬区子ども・子育て会議を開催いたします。  
事務局より、委員の出席状況の報告を行います。
- 【事務局】 本日の出席者は、委員15名中、出席委員14名です。委員過半数の出席を得ておりますので、練馬区子ども・子育て会議条例第6条第2項により、会議は有効に成立しております。
- 【会 長】 続いて、配付資料の確認をお願いします。
- 【事務局】 (配付資料の確認)
- 【会 長】 それでは、議題に入ります。議題1「第3期練馬区子ども・子育て支援事業計画(案)」についてです。事務局より、資料1、資料2-1、2-2の説明をお願いします。
- 【事務局】 (資料1、2-1・-2の説明)
- 【会 長】 ご意見、ご質問等がありますでしょうか。
- 【委 員】 私は最近ベビーシッターの仕事を始めました。それに伴い保護者の方や職場のスタッフ、周辺のママたちから意見を幾つか伺いました。
- まず、障害児のきょうだいの預かり場所についてです。障害児は、その子自身の預かり場所の問題もありますが、きょうだいについても苦労している保護者が多くいます。保育園は介護加点があり、障害児のきょうだいは入りやすいです。一方で、学童は、お母さんたちが働いていない場合、加点にならず、学童に入れないことが起きます。小学1年生の4月は、ほとんど午前中で帰ってきてしまうため、保護者の負担ができてしまいます。このような状況の家族に対して、学童の加点も検討して欲しいです。
- 次に、区の小学校のバリアフリー化についてです。重症心身障害児(者)を守る会の訪問事業の際、車いすの子どもを連れて行くと、小学校にエレベーターがなく、私が30キロの子どもを抱っこして、先生に4、50キロの車椅子を持ち上げてもらい階を上がります。なおかつ、きょうだいの学校にも、行事や保護者会で連れていかざるを得ないときがあり、毎回同じ対応をするしかありません。子どももこの先大きくなります。よりバリアフリー化を進めていただきたいです。
- 2025年末までに要配慮児童生徒等が在籍する全ての学校にエレベーターを常備することが努力義務になっています。これは、学童のみ利用している子どもは対象外です。学童だけを利用している子どもも車椅子が必要な場合があるにもかかわらず、対象外になっていることは残念です。こちらも併せて検討して欲しいという声をもらっています。各学校に昇降機も設置されていますが、メンテナンスをしていないと使えません。昇降機を使えたとしても状況によっては乗れないこともあるため、エレベーターを設置して欲しいです。エレベーターがあっても給食のワゴンを運ぶ用で、子どもは使えない学校もあります。エレベーターがあるのに、使えないのはいかがなものかと思ったことも伝えたいです。
- 次に産後ケア事業についてです。とても安く利用できるため、今後も使いたいのので、なくさないで欲しいという声をもらっています。ただ、利用期限が早いものがあり、利用する前に期限が切れていることもあるそうです。できるだけ期限を長くするなど検討して欲しいです。

さらに、ベビーシッターの助成についてです。すごく助かるということですが、家事代行が対象外になっており、あくまで子どもを預かる事業になっています。保護者は、子どもと自分が過ごしたいので、代わりに家事をしてくれる方が助かるという意見ももらっています。子どもが心配な中で出かけても気になってしまうので、家事をやってもらえるほうが良いです。また、交通費が助成対象外で、交通費がかからないベビーシッターを探すことが難しいという意見があります。

最後に、障害児を育てている方が児童発達支援を利用する際、相談支援事業所からことごとく断られたことがありました。理由を聞くと、現在抱えている人が多過ぎて、これ以上新規で受入れができないということだったそうです。その方は、新しい事業所ができたため何とか入れましたが、入り口でつまずくと療育のスタートラインにも立てません。療育は早ければ早いほうが良いので、こういった事情も改善されていけば良いと考えます。何か改善策等を伺えればと思います。

【事務局】

学童クラブの指数について、保育園と違う部分があるのは確かです。個別の事例については、状況が分からない部分がありますが、月に20日以上保育を必要とする日があって、主に自宅で障害のある兄弟姉妹の看護・付き添いの場合でも、通所や療育などで、放課後の時間帯に外出する日が月に8日以上ある場合は、居宅内で就労している方と同じ9点の指数がつきます。週に2日程度の通院や療育があれば、基準の指数として9点がつき、1年生であればそれにプラス2点がつきます。

また、学童クラブは保育園と違い、子ども自身で自宅まで帰ることが前提となります。帰宅時に自宅内に保護者が居るか居ないか、すなわち居宅外と居宅内で1点の差というのが妥当と考えています。個別の状況を伺ってご相談に乗っております。我々としても引き続き、なるべく配慮して対応していきたいと考えております。

【事務局】

ベビーシッター利用支援事業は、東京都の独自事業になります。理由を問わずお子さんを一時的に預かり、その間に保護者が用事やリフレッシュすることを目的としているため、家事支援は対象外です。また、事業の提供者は、都が認定した事業者であり、ベビーシッターは、都が設定した研修等を修了した保育従事者が対象となります。都は、研修のオンライン化など、ベビーシッターが増えるように取り組んでいます。令和6年7月の区の事業開始時は、26事業者でしたが、現在は30事業者まで増えています。家事支援については、産前産後の体調不良などにより、家事や育児が困難な家庭に対して、日常的な掃除や食事の支度等を手伝う育児支援ヘルパー事業を実施しています。子どもが2歳になる月の末日まで利用可能です。また、主な利用上限時間は、令和6年度に36時間でしたが、令和7年度から96時間に拡大しました。

【事務局】

残りのご質問については、本日担当課長がいらないため、分かる範囲でお答えします。小学校のバリアフリー化として、学校を改築する際にエレベーターの設置を進めています。一方で、既存の校舎にエレベーターをつけることは、校舎の耐震強度への影響や、設置のスペースが取れない等の課題があると聞いています。

産後ケアについては、母親への心理的なケアや育児についての相談などが事業

目的となります。出生してから約1年間は、ケアの重要性が高いことを踏まえ、出生後1年以内の母子を対象としています。特に、産後約1か月から3か月の時期は、産後鬱等の発症リスクが高いこともあり、ショートステイは、おおむね産後4か月までを対象としています。退院の時期によって4か月を超える場合もあると聞いているため、所管にご相談いただければと思います。

【委員】 区は前向きに様々なことを行っていると、ベビーシッターの利用者の方もおっしゃっていたので、このように改善できたらという思いを私たちも伝えることができればと思っています。よろしくお願いします。

【委員】 資料1で示されたパブリックコメントについてです。子どもからの意見が非常に興味深く、イベントの話にも、48ページのNo.57から49ページのNo.63まで多くの意見がありました。区の事業やイベントは、たくさんあると思います。私は小さい時に親子で一緒に区のイベントに参加した良い思い出があるので、48ページのNo.57に書いているように、もっと広めて欲しいと思いました。意見に対する区の考え方には「子育て応援アプリなどを活用して」とありますが、親だけではなく、子どもに対しても周知をして欲しいです。親もアプリ等で様々な情報を探していますが、子どもから言ってもらえると家庭での会話のきっかけになり、土日出かける先の候補にもなると思います。

パブリックコメントを実施する際に、区立小中学校で配付されている児童・生徒用タブレットパソコンのブックマークに意見募集ページを登録したという話がありました。子ども向けのイベント情報をデバイスに入れることや区報に流す等、上手い仕組みをつくり、子どもにも情報を流してもらえると、小学生以上の子どもは、かみ砕いて伝えてくれると思うので、ぜひお願いしたいです。

【事務局】 子どもの体験については、第3期計画(案)にも掲載しており、広く充実を図っていきたいと考えています。前回の会議でもご意見をいただきましたが、イベントなどの取組を実施していてもそれが伝わらないと、結局参加の機会を逃してしまいます。アプリ等を活用しつつ、子どもたちにも情報が届くような仕組みを引き続き考えていきます。子どもが機会を逃さずに、様々な体験機会を得ることができるよう取り組んでいきたいと思えます。

【委員】 パブリックコメントで、子どもからの意見はどのように取ったのでしょうか。自分で文章を書いて出せる子どもは、恐らく知識があり、ある程度年齢も重ねていると思います。資料1の3ページに「乳幼児」と書かれていますが、乳幼児へ意見を聞くことは非常に難しいと思います。都では、子どもの意見を聞くため、各児童相談所でアドボケーターを養成しています。一方で、実際にそれを実施しているところは小平児童相談所しかないと思います。その他では、それを参考にこれから子どもたちの意見を聞くという状況です。

子どもの意見を聞くことはなかなか難しく、専門的な研修を受けてしっかり取り組まないと、聞き方によっては大人の意見に流されてしまいます。パブリックコメントで子どもの意見をどのような人がどのように聞いていくのか等、今後の考え方を伺います。

【事務局】 パブリックコメントの実施にあたり、区立小中学校の児童・生徒用タブレット

パソコンを活用しました。区の子ども向けホームページであるキッズページ内で子どもの意見を募集する案内を行い、タブレットパソコンからアクセスできる動線をつくりました。子どもからは、インターネットの回答フォームを利用して意見をいただきました。回答の中には、子ども自身が書いたものや、母親が代理で提出した場合などがあり、ご家庭によって、様々な形で意見をいただけたと思っています。

年齢が幼くなると意見の提出が難しくなるため、乳幼児等からの意見を上手く聴き取ることについては、今後の検討課題です。大人が子どもの意見を勝手に解釈すると、間違っただけのものになるため、様々な事例を参考にしながら、子ども自身が持っている本質的なニーズを把握する方法について引き続き研究していきます。

【会 長】 私からも1つよろしいでしょうか。非常に多くの区民の方から意見が寄せられました。特に、谷原保育園について心配している声が多かったです。現在通っている園児や保護者に対して、どのように対応しているか教えて欲しいです。

【事務局】 谷原保育園については、今回の第3期計画（案）に記載はありませんが、老朽化が進行しているため、練馬区公共施設等総合管理計画（実施計画）に基づき、令和8年度末をもって閉園します。あわせて、令和6年4月に近隣にしろくま保育園を誘致し、保育サービスの充実を図ってきたところです。

閉園は、公表前に在籍していた園児が谷原保育園で卒業できるように段階的に行っていきます。在籍園児は、近隣のしろくま保育園の園児と日常的に交流しています。また、環境学習としてスケルトン清掃車を園に呼ぶ際や、荒馬という舞踊の講習会等を行う際に、両園の園児と一緒に見学する等の交流を図っています。

このほか、保護者の方向けに、昨年度末からインターネット上にご意見フォームを設置し、ご意見を24時間365日受付できる体制を整えています。閉園に変わりはありませんが、引き続き丁寧な対応に努めてまいります。

【会 長】 この件に関して、心配している意見が多くございますので、引き続き子どもたちや保護者の方への丁寧な対応をお願いします。

【委 員】 資料1の2ページ、寄せられた意見に対する対応状況の中で「その他、上記以外のもの」は、どのようなものを指すのでしょうか。

【事務局】 「その他、上記以外のもの」は、例えば、年少扶養控除の復活を国に訴えて欲しい、こども食堂やフードバンクが増えている根本的な問題点の解決に向けて都や国に働きかけて欲しい、公園に喫煙者がいなくなるようにパトロールして欲しいなど、計画の記載と直接的には該当しないと考える意見を区分しました。

【委 員】 子どもの権利についての意見や、エビデンスや科学的な研究を踏まえた計画なのかという意見があります。計画策定には、ある程度のエビデンスは必要だと思います。それは国の仕事で、区の仕事ではないかもしれませんが、エビデンスがない状態ではなく、様々な現象の根本的な原因をある程度把握したうえでの策定が必要だと思います。また、子どもの意見を聞くこと自体は悪いことではないですが、乳幼児には、まずは、平和な家庭と優しいお母さんと一緒にいることが最善だと思います。要保護児童対策地域協議会で様々な話を伺いますが、例えばヤングケアラーや虐待の問題等は貧困が大きな原因だと思います。貧困家庭だけで

はなく、一般家庭も恐らく経済的な余裕が無いのではないかと思います。本当の子どもの幸せは、両親が笑顔でいることと、豊かに過ごせる環境だと思います。それには絶対お金が必要だと思います。

限られた予算の中で、区は頑張っていると思います。幼稚園に対しての補助金も他区に比べると手厚いです。そこは素晴らしいですが、経済的な支援を国にもある程度働きかけるのか、それとも練馬区モデルをつくるのか考える必要があると思います。会議等で、何のために時間を費やして集まっているかという、子育てに関わっている方や子どもたちのためだと思います。小学生はまだ自分の意見を述べられますが、何も述べられないゼロ、1、2歳の子どもたちの安全安心と幸福を大人として代弁し守っていく必要があります。子育て世帯が豊かにならなければ、少子化や虐待もなくなれないと思います。そこを忘れず、軸足にして取り組む必要があると思います。

#### 【委員】

計画がしっかり冊子になったことで、私自身携わりながら、形に残るものが出てきたことは非常に嬉しく思います。その上で、4点ほど感じたことがあります。

1点目は、新規事業について、区民の声を反映したものが多くあると感じました。一方で、それを運営するのは恐らく職員で、既存の取組にプラスアルファだと、負荷がかかるのではないかと思います。保育士も一親であると以前お話ししたと思いますが、例えばおむつのサブスク等も、各園児のサブスクの登録の有無等の管理があり、意外と現場に負荷がかかります。区民の声を反映して実施したことが現場の負荷になり離職に繋がるのであれば本末転倒です。現場の声も聞きながら、辞められるものは辞め、新規事業に注力して欲しいです。

2点目は、谷原保育園についてです。皆さんが反対意見を述べている根本的な本質を知ることが大事だと思います。単に園が減ることが問題なのか、それとも公立保育園が減ることが問題なのか、公立保育園の減少に反対意見が出る理由を深掘りしていく必要があると感じました。

私自身は公立保育園に子どもを通わせています。私立園と比較したわけではないですが、園見学をした結果、公立の保育園に通わせたいと思いました。職員は公務員なので皆さんしっかりしていますし、恐らく民間の保育士と比べて離職率が低い等、安心感があるのではないかと思います。どこに本質があるかは皆さん意見があると思うので、真摯に向き合っていく必要があると感じました。

3点目は、待機児童についてです。様々な意見が寄せられていたと思います。国の指標があり、それに対して区として対応していると思います。一方で、国や都ではなく自治体が一番現場に近いと思います。待機児童ゼロも大切ですが、実態として、ニーズに合わせた対応ができていないか課題だと思います。私は、駅近で預けることができ、共働きで仕事と両立できていますが、預けられず仕事等を断念した方が多くいるのではないかと思います。その辺りも見たいです。

最後に4点目は、子どもの意見についてです。子どもの意見は非常に貴重だと思います。まだまだ子どもの意見については検討する部分があると思います。一方で、例えば、ボールなど児童館の遊具で遊びたい、野球やサッカーができる場所が欲しい等の意見に対して、計画(案)の表記上は意見を反映していることに

なっていますが、あくまで、意見を参考にしながら対応していきますという回答にとどまっています。例えば、実際にボールで遊べるようにしたら、大半の子どもが納得感を持つ計画になると思います。特にボール遊びは子どもにとって非常に分かりやすいと思います。今、大谷翔平選手が活躍して、その中で、野球がしたいのにできない子どもが非常にかわいそうだと思います。ボール遊びができるところを増やすだけでも何か子どもたちに示せると良いと思います。

野球やサッカー等のボール遊びは相手がいないとできません。ボール遊びで子どもと一緒に遊びたいという要望に応えてもらえると、親としてありがたいですし、子ども自身も嬉しいと思います。単年度で施策を計画する際には、その辺りも検討して欲しいです。

【事務局】 待機児童についてです。確かに区は、国の指標を用いて対応しています。一方で、実態として現場に近い自治体がニーズを拾っていくことは大切だと考えています。第3期計画(案)を策定する際にも、保育の需給については事務局で検討しながら策定しました。今後も引き続き保育需要について、ニーズを確実に捉えた上で対応していきたいと思います。

【会長】 今期最後の会議ですので、皆様から意見を頂戴できればと思います。

【委員】 資料2-2の40ページに、こども誰でも通園事業の実施について明記されています。この事業について令和7年7月から実施されると伺っています。この事業はゼロ歳6か月から2歳児の乳幼児を対象にいつでも子どもを保育所に預けることができます。保育所に短時間でも行くことは、子育てに苦労している保護者や子どもの育ちにとって良いと思います。私が心配していることは、この事業に伴う保育士の確保です。どこの園も保育士の確保には非常に苦慮しており、その中での新規事業です。事業の実施はどの園でも非常に困難ではないかと思います。

私がお知らせしたいことは、新しい事業が立ち上がったからといって、どこの園も必ず保育士が確保できて事業が拡大していくとは限らないことです。現在、保育士の養成校は減少しています。地方では廃止する短期大学や専門学校が目立ってきました。区の近隣だと、板橋区にある淑徳大学短期大学部が廃止されました。保育の需要は高まると思いますが、そこを担う保育士の養成をしっかりと国に取り組んでもらいたいです。保育業界の必要性は高いにもかかわらず、担い手がないことになり非常に気にかかっています。

次に、資料1の7ページNo.20に保育士の処遇についての意見とそれに対する区の考え方が示されています。国が今年度10.7%の処遇改善を行うことを決定しました。区独自の助成もあり、処遇は改善されています。実際問題、ここ10年間給料は上がっています。それにもかかわらず、実際にお金をもらっている保育士が少ない現象があります。法人によっては、総収入のうち人件費が8割を超えているところもあれば5割に満たないところもあり、同じ仕事をしているにもかかわらず、格差が生じています。資料に記載されている10.7%の処遇改善は、人件費に使うことになっていますが、現場で矢面に立つ保育士に確実に渡る形ができないと、処遇の問題は根本的に解決しないのではないかと危惧します。

【事務局】 こども誰でも通園事業についてです。国は、令和8年度から子ども・子育て支

援法に基づく新たな給付として、全国の自治体でこども誰でも通園事業を実施することとしています。それに伴い区でも、令和7年7月からこども誰でも通園事業を試行実施したいと考えています。実施にあたり、保育園協会、幼稚園協会にご協力をいただき実施していければと考えています。

職員体制が厳しいことは重々承知しています。その中で、例えば定員を満たしていないところを、こども誰でも通園事業に活用することや、一時預かり事業で配置している職員に兼務として対応してもらうこと等、既存の枠組みや職員体制の中で対応できないか考えています。その体制の中で、非常勤の方等を募集していただき、対応できればと思っています。令和7年7月からは試行実施であり、全園で実施するのではなく、まずは可能な園で実施していただき、それぞれの事業者や園の考え方を尊重できればと思います。

【事務局】

あわせて私からもお話しします。こども誰でも通園事業だけでなく通常の保育でも職員確保は大きな課題であると捉えており、厳しいご指摘だと思います。先ほどの説明にもありましたが、こども誰でも通園事業が令和8年度から本格実施されるにあたり、来年度から区でも試行実施する予定です。

保育園協会や幼稚園協会に様々なご相談をしながら、実施スキームを模索し進めているところです。その中でいただくご指摘の大部分は職員の確保についてです。区も処遇改善につながるよう、国や都の仕組みを使いながら様々な制度を組み立てましたが、人の確保がスムーズになったとはなかなか言い切れません。

国も過去最大となる10.7%の処遇改善を打ち出しています。これについて、処遇につながるよう各事業者に伝え、人件費として計上したかを確認します。一方で国の制度上、事業者に渡ったお金が各事業者の給料規程に基づき各職員個人に渡ることから、どうしてもスキル等で給料に差が生じることはあると思います。

このような仕組みの中でも、区ができることを最大限行いながら処遇改善につなげていきたいと思ひますし、折を見て、国や都にいただいた意見を伝えていけるように頑張っていきたいと思ひます。

【委員】

幼稚園協会も保育園協会と同じで人の確保が大変です。幼稚園は、家賃補助が無かったのですが、区から家賃補助で6万円が支給されることになりました。私の幼稚園も人件費が約9割を占めています。預かりも入れた11時間開所だとシフト制をとるため、定員460名に対して、職員が30名を超えるぐらいです。

子育て中のお母さんや幼稚園や保育園を退職されて子育てしながら働きたい方等、どんな方でも働ける環境を構築して離職率を低くしようとしています。私の園では様々な取組を行い、職場環境を良くすることで、離職率も非常に低くなっています。職員が不足しているからこそ経営者も考え、処遇改善も進み、それはそれで良いと思ひます。一方で、そもそも保育士や幼稚園教諭の給与が安過ぎるとも感じます。私は、幼稚園や保育園の先生は、大学の先生よりもはるかに大変な仕事をしていると思ひています。そういう意味で、大学教授相当の給料をもらってもいいと思ひます。ヨーロッパでは保育者の社会的な地位や年収は高いです。欧米では、幼児期を大切にしているため、全く同じようになるとは思ひませんが、これからの時代、大切なことだと思ひますのでよろしくお願ひします。

【委員】 保育士養成の課題について、別の角度から補足して意見できればと思います。私自身、この会議委員を務める中で、保育の問題に関心を持ち、任期の途中で保育士資格を取りました。私は子どもが3人いて働いていたこともあり、養成校に通う時間もなく、完全に独学で保育士資格を取得しました。

保育士試験は2年程前から、オンラインで出願や合否が確認できるようになりました。また、試験の実施回数が年2回、地域限定まで入れると年3回あり、特にコロナ禍以降では試験勉強のためのオンラインリソースが非常に増え、ほぼ無料です。パソコン1台あれば、過去5年間分の過去問や解答はPDFデータで正規サイトから確認、ダウンロードができます。毎度過去問にかなり似た試験問題が出る傾向もあり、ある程度自分で演習を行うと一定数の得点にはなります。加えてYouTubeや他のSNS媒体でも様々な人が動画等で解説をしていたり、コミュニティーを作っていたりします。さらに、試験に不適切問題があった場合は、それを報告できる窓口もあります。実技試験は、ほぼ毎年同じような問題が出題されており、主婦や周りのパパ友、ママ友、あるいは、異業種の方等々、様々な方が社会人で受験、取得できる資格であることに自分自身が受験して気づきました。

一方で、保育士資格は若い学生が養成校で取得するというイメージが先行しています。このような資格の取得方法があることを何か広報等できれば、リスキングの一つとして、子育て世代の方や社会一般の方々も含めての何か1つの突破口になるのではないかと思います。

【委員】 今回の委員のお話、ぜひ資格の取り方のセミナーをして欲しいです。

【委員】 ありがとうございます。個々に聞けば、社会人や子育て中のお母さんを含め、再就職も兼ねて資格を取得したような人は意外にいます。これを、保育士を増やす1つの突破口にして欲しいと思います。

【会長】 皆様、ありがとうございました。これまで2年間にわたり皆様から様々なご意見をいただいて、第3期練馬区子ども・子育て支援事業計画が策定されました。今期最後の会議ですので、今後の区の子ども・子育て施策について、皆様の考えを一言ずつお寄せいただければと思います。

【委員】 2年間ありがとうございました。委員として会議に出席し、様々な議論をさせていただいたことは、学びも多く大変感謝しています。

私は、このまちで子育てをする親として、どのような子育て支援策がどのようなプロセスで行われ、決定されてきたかを自分が中に入って知っておきたいという思いで会議委員に応募しました。

何事も関心を持つことや知ることからスタートすると思います。様々な施策がある中で、皆さんが知らないものも多いと思うので、ここがゴールではなく、これから第3期計画も知ってもらうことがスタートになると思います。計画の周知を徹底し、本当に支援が必要な方に確実に届くようにすることが一番の重要です。

この会議では、困っている人や子育ての大変な部分を議論することが多かったと思います。私はどうしても子どもが欲しくて、様々な医療にも頼り子どもを授かり、子育てを楽しみたいという思いが強いです。そのため、子育てを楽しめる世の中や社会、まちになって欲しいという思いが強くなります。子育てを楽しむ

ことができる施策として、第3期計画では、ねりまママパパてらすやブック・アート・キッズスペースの設置等が盛り込まれたことが1つありがたいと思えました。子育てを楽しむことができないと、心の余裕がなくなり、周りの子や自分の子に目が届かず、自分のことや目の前の子どものことで手一杯になることが多くなってしまいうため、心に余裕を持ちながら子どもに愛情を注ぎ、子育てを楽しむことも重要なポイントだと思えました。新規事業にも期待していますし、事業が確実に実行されるように周りの人を巻き込み、協力者を増やし、住民を巻き込んで実施されることを期待します。

子どもが未就学児なので、その先の大変なことは未知数ですが、第3期計画が実行され、切れ目のない支援が続いていくことを願っています。2年間ありがとうございました。

【委員】

2年間ありがとうございました。2年前、子どもはゼロ歳児でしたが2歳になり、あっという間のような2年間でした。最初は、育休中に参加して、11月に復職し、今はフルタイムで働いています。

我が家の育児と働き方は、夫と私で子育ても仕事も半分ずつです。共に仕事はフルタイムですが、育児も折半しています。上の子の時は、当たり前のように私が時短を取って働き、育児をメインに仕事をしていましたが、折半にすると、下の子はすごくパパっ子になって、パパも育児をしている喜びや、子どもに分かりやすく愛されていることが大きな喜びになっていると実感します。

この会議でも、育児をする人の主語がお母さんということがどうしても出てきますし、実際そういうシーンは多いとは思いますが。一方で、主役はお母さんだけではなく、お父さんでもあるし、おじいちゃんやおばあちゃん、子どもが関わる全ての大人が子どもにとって大切な人になって欲しいと思っています。最近、保育園でも、お母さんがばりばり働いて、お父さんが仕事をセーブして育児をしている家庭や、会社でも男性が1年育休を取っている等、体感としてもここ数年で育児の在り方が変わってきていると感じています。

正解は各家庭にしかなく、我が家のやり方があっているとも思いませんが、各家庭でのやり方を実現できる社会であり、それに合わせた行政サービスがあることが理想だと思います。こうあるべきだということはなかなか言えないのが育児だと改めて感じています。

2つ目はこの会議の感想です。初めてここに来たときに、すごくしっかりした会議に驚きました。私は、区で子育てしやすい環境を一緒につくるお手伝いができればという理由で会議に応募したので、区に対して何か責めているわけでもないし、何かを聞きたいわけでもなく、一緒に考えたいという気持ちであったため、本音の部分等をもっと聞けたら嬉しかったです。本当はこうしたいけれどできないということはたくさんあると思います。現場の方や行政の方、リアルなパパ、ママがいる素晴らしい環境なので、お互いに知恵を出し合って、実際に何かをつくり上げていくような形があればいいなと思います。

この会議は、自分が言いたいことだけ言えば、こんな素晴らしい資料ができているとびっくりしてしまって、その裏にこれを作る方がどれだけ大変なのかを想

像してしまいます。もっと区民にも頼ってもいいし、協力したいと思っている人もたくさんいると思うので、そこは区民にも期待していただきたいです。

本当に有意義な2年間でした。ありがとうございました。

【委員】

2年間という短い間でしたがありがとうございました。仕事やプライベートと離れ、このような議論に参加できたこと自体ありがたい経験だと思っています。恥ずかしながら、子育てを妻に任せっきりだった自分もいて、どのような行政サービスがあるのか等、私自身、当事者という意識がまだまだ不足していたタイミングでこの会議の公募があり、改めて自分自身も関心を向けようと応募して会議に参加させていただきました。様々なやり取りの中で、議論を踏まえて子育て施策を検討していることを改めて認識しました。それに対して我々の意見を少しでも反映でき、第3期計画にも自分の名前を載せていただいて実際に形として残ったことが、何よりもほっとしたところです。

私含め区民委員が5名いますが、当事者意識を持ち、かつ行動力のある方がここに集まっていると思います。一方で、区民の方々と置き換えたときに、我々が果たして多数派なのか、少数派なのか、分からない部分もあり、自分の意見が区を代表している意見であるかも、正直半信半疑ではありました。ただ、皆さん共通して、子どもを笑顔にできる環境という話が軸にあり、それが笑顔輝くという形で今回の計画に反映されたことが良かったと思います。

先ほどもありましたが、子どもには笑顔で過ごして欲しいし、何より子育て自体が楽しくて、子どもがいなかったら今はどうだったのかと思うぐらい子どもと楽しい時間を過ごしています。どうしても保育は、ネガティブなことばかりがニュースになってしまいます。少子化の問題や保育士も子どもと接することやそれ以外の仕事がストレスになっていることが離職につながっていると思うと、本来子育て自体が楽しいものであることが、この計画の施策も含めて広がればいいと思います。

最後に、この会議に参加する際も、子どもを保育園に預けることや妻が面倒を見てくれていることもあり、このような支えがあってこそその参加だと思うので、その辺りも忘れずに、次の自分にも生かしていきたいと思います。

改めて、2年間ありがとうございました。

【委員】

まずは2年間ありがとうございました。皆さんと様々な議論ができたことは、自分の親ライフとしても非常に勉強になりました。また、自分の子どもを取り巻く行政サービスや現場の先生が様々な視点を持ちながら、計画も含めて事業ができていくと知ることができて非常に勉強になりました。子どもにもそれをずっと伝えていきたいと思います。

先ほどもありましたが、新しいことを始める際に、古いものを消していくことはすごく勇気が必要だと思います。子どもは大人をよく見ていて、特に親のことを一番に見ていると思います。区で子育てをする中で、区の職員や幼稚園、保育園、小学校の先生方が本質的な業務に時間を割けるように、DXや様々なツールを使いながら効率化を進めて、ぜひ16時、17時に帰り子どもの面倒を見て、職場であったこと等の会話を両親共にできる、1人でも子どもと向き合える時間があ

る社会がつくられると良いと感じました。隗より始めよではないですが、行政の方には、ぜひ業務の効率化を図ってもらい、子どもに、大人はしんどいという姿ではなく、ぱっと帰れて、楽しいけれど意味のある仕事をしているという姿を見せることができるように努力していくことが大切だと、自戒を込めて感じました。

自分自身も、もっとコミュニティーにコミットしていく必要があると感じました。私は夫がカメルーン人で、アフリカではみんな子育てをします。いとことして紹介される人が20人ぐらいいて、日本語で言うところのいとこではないわけです。それぐらい家族の概念も広く、コミュニティーというと、近所の人全員、町や村の人全員で、みんな子育てをして、見守って、叱って、褒めることが当たり前です。私の家族観を変えたのがうちの夫の実家です。

日本で自分ができることとして、今もすごく良い関係ですが、周りのご近所さんと一緒に子育てをしていきたいと思います。確かに様々なトラブルもあるかもしれませんが、それを恐れて何もできないのではなく、積極的に関わる中で、自分の子どもも人の子どもも大切に育てていく気持ちを持って、区で引き続き子育てをしていきたいです。それが自分の居場所だけでなく、子どもの居場所にもつながると思います。万が一、子どもが学校に行きづらくなった時に、近所の子どもたちとは遊べる等、新しい居場所を見つけてあげることに繋がるのではないかなと思ったので、期待を込めて公募委員卒業生として、引き続き区で頑張っ子育てしていきたいと思います。ありがとうございました。

【委員】

今までありがとうございました。私自身、15年前の最初の妊娠から振り返ると約5年のスパンで見ても、今、区の子育て施策は本当に素晴らしいと思います。例えば待機児童の緩和や解消等子育て施策にご尽力くださった全ての皆様に大変感謝しています。私もその恩恵を受けられた保護者の一人です。

この会議では、主に10歳未満の子どもをテーマに語られることが多かったと思いますが、定義上10歳以上の子どもや若者もこの会議に関わるため、最後に私が思う10代の子どもの課題について意見を述べます。10代の子どもたちは、反抗期や思春期ということもあり、直接区に伝えることや言語化することが難しい年代であると思います。その中で3つ課題があると思っており、まず1つ目はメンタルヘルスについてです。

ヤングケアラーという言葉が普及してきていますが、ヤングケアラーに関わらず、この時期はそもそも悩みがちな子どもが多い年代です。これから春休みに入る時期で学年も変わります。2024年のデータでは、10代の自殺者数が前年より増加し、かつ、従来は男子の自殺者数が女子よりも多かったのですが逆転し、女子が男子よりも多くなりました。また、自殺理由も、人間関係等より深掘りしなければならぬものが上位にきています。これは、次に話すテクノロジーの問題に繋がりますが、スマホやSNSの普及により子ども自身も悩んだ時にどこに相談していいかわからず、正しいパスにつながらないことが想像できます。

現在ICT化が進み、小中学校ではsigfy等でPDF配信が増えたと思いますが、それだと子どもが自分事として受け止めない可能性もあるため、紙も併用し、適宜啓蒙しながら相談窓口などの情報を提供して欲しいです。既に区は育児相談、教育

相談、児童相談所等、あるいは国等の様々なレベルで相談窓口を用意しているため、悩んでいる子どもたちに伝えるのみだと思っています。2つ目に、テクノロジーとの向き合い方です。

今、10代のスマホの普及率が9割を超えています。公立小中学校ではスマホを持ってくることは禁止ですが、プライベートではスマホを使っているという子どもが圧倒的に多いです。特に中学生以降になると、キッズケータイやガラケーではなくスマホに替わります。子どものスマホの使い方やSNSとの向き合い方、デジタルデバイスへの向き合い方は家庭に任せがちで、デジタルネイティブではない世代の保護者は正しい解が分からない場合が多くあります。どこまで規制をかけるべきなのか、規制をかけたとしても子ども側で回避される等、多くの保護者が悩んでいます。中学校等でも情報モラル講座や一斉型の講座はありますが、10代の子どもたちは反抗期的なところもあり、なかなか一斉型のプッシュだけでは素直に従わないこともあると思います。

テクノロジーは良い面もあれば悪い面もあります。例えば保育士の資格を効率的に取れるようになったことは良い面です。悪い面は、例えば子どもの場合、情報収集の仕方によっては誤情報に結びつくことやネガティブな情報やネットいじめ等、親が把握できない様々なトラブルが想像できます。今から10代を生きる子どもたちは、デジタルタトゥーと一生向き合っていかなければならない世代にもなるので、保護者だけ、家庭だけ、学校だけ、区だけではなく、協働してテクノロジーや情報へのリテラシーを上げる機会ができればと思います。

最後に、10代の子どもたちのヘルスリテラシーの向上についてです。例えば、HPVワクチンは、女子の場合、9価が自己負担無く打てます。男子の場合は、4価のワクチンを区独自で自己負担なく打つことができます。乳幼児の頃は母子手帳を必ず携帯し、親がたくさんワクチンを受けさせて、かつ、子どもが反対や賛成の意見を持たない年代のため、公衆衛生的な部分は管理しやすいです。10代になると子ども自身も親自身も把握が難しくなるため、必要なワクチンが自己負担無く受けられる場合は、積極的に発信して欲しいです。

また、生理の貧困の解消に向けて、区では区立施設で生理用品を無償で配布する取組を行っており、素晴らしいと思います。生理用品は、私の子ども時代よりも2倍近く値上がりしています。一方で、世帯の可処分所得はそれほど上がっておらず、子どもの人口の約半分が女子にもかかわらず、気軽な生理用品の購入が難しいことは、インフレの現状で想像するに易しです。民間企業では女子トイレに生理用品を置く企業が増えました。例えば、児童館や区立小中学校の女子トイレに生理用品を置くことで、勇気を持って保健室に取り行かなくても生理の対策ができるような場を10代の子どもたちにも設けて欲しいと思いました。

【委員】

先ほど委員からもありましたが、私ももっと緩やかな雰囲気での会議だと思っており、実際に参加してみると、様々な自分の立場もありつつ、こんなに課題が出てくることや、逆にそれに対して区が寄り添って解決のために動いていることが分かり感謝したいと思いました。

意見を言う中で、区や都等、管轄の違うものをリンクさせていくことはとても

難しいと思っていました。私は、働くことができる時間が1日に2、3時間しかなく、ベビーシッターはとてもやりやすい仕事です。一方で、こども誰でも通園制度のように自宅で保育はして欲しくないけれど、2、3時間預けたいという人もいると思うので、シッターと自宅外での保育をマッチングする仕組みができれば良いと思いました。ただ、区と都の管轄が違ったり事業者が賛成できないと難しいこと等、様々な隔たりや課題があると思います。そういうところもみんなの前向きにやっていければ良いと思いました。

最後になりますが、私自身、障害児と健常児の親であり、保育士であり、重症心身障害児施設の職員であり、いわゆる一般の認可保育園でも働きましたし、ベビーシッターも始めて、また、シングルマザーでもあります。自分の立場や周りの同じ意見を持っている人等、様々な立場からの意見を区に対して、会議だけでなくホームページの意見フォーム等で、よりたくさん出すことで、改善に向かえば良いと思いました。

【委員】 2年間ありがとうございました。生まれた時から、小学校に入っても途切れないサポートを区ができており、どんどん良くなっていると思います。私も子どもを3人保育園に預けましたが、良くなってきた環境が羨ましいと思います。

私は、この会議に事業主の代表として参加しているため、子育てに優しい職場をつくっていきたくと常に思っています。今いる男性社員は、子どもが4人いたり、育児休暇を取ろうかどうしようかという話をしていたりします。そのぐらいこの数十年で男性の意識が変わってきたと思います。2、30年の間で、女性の仕事と産休や育休の関連はあまり変わっていないと感じます。ただ、男性が加わることや一緒に子育てをしていくこと等の意識は非常に変わったのではないかと思います。2年間ありがとうございました。

【委員】 私の保育園では、3月上旬に卒園式を行います。先日、卒園式が無事終わり、子どもたちの姿を見ていましたが、やはり子どもたちは、入園してすごく成長していきます。今、子どもの主体的な保育という子どもの自主性を重んじていくことが言われています。子どもは、保育園に来なくても、家庭でもすくすく育つのではないかと思います。一方で、様々な環境の問題もあるため、環境が整った保育園で子どもたちが育っていくことに良い面もありますし、家庭での在り方も非常に大事だと思います。公募委員の皆さんのお話を聞きながら、それぞれご苦労や様々な願い、思いがあることを聞き、とても勉強になりました。

家庭の在り方、そして社会の在り方という意味では、企業も努力していると思います。時短の導入や、育児休暇が長く取れる社会になってきました。一方で、経済的な保障が伴わないと、長期間育児休暇等を取れないと思います。企業側でも考慮していただき、様々な関係性の中で子どもが喜べる社会になっていくことが望ましいと考えています。

子どもは自らが育っていく力を持っているので、それを私たち保育者はしっかりと見届けながら、保育に関係する者も共に成長し過ごしていけることが、これからの保育には大切だと思います。ありがとうございました。

【委員】 2年間ありがとうございました。この会議に参加して様々な考えや意見、思い

等、今まで気づけなかった視点を見ることができて、大変勉強になった2年間でした。

まず、立場を初めて知って、考え方が変わって、行動が変わることが大事だと思いました。会社勤め等をしていると、どうしても縦割りで、横の部署とつながればもっとスムーズにいくことや、無駄なことをやっていること、逆に、力を合わせることによって1だったものが2にも3にも4にもなることがあると思います。会議でも、要望がたくさんあったと思います。賃金改定など、区にも来年度上乘せしていただくことになりましたが、他の業界に対して低いです。ただ、低いからといってどうするのか考えていかなければならないと思います。賃金を上げれば人が確保できるのかというと、人の欲望というのは際限がないのでそうとは限らないと思います。例えば、仕事を引退しているシニア世代にアプローチする等、視点を変えることによって改善できると思います。

学童クラブでも、子どもたちがこんなおもちゃが欲しい、あんなものが欲しいと言いますが、叶えられるものと叶えられないものがあります。ただ、面白いもので、無いなら無いで、組み合わせで遊ぶ、意外なものをおもちゃにする等、柔軟な発想があります。大人も固定概念を覆していく必要があると思います。縦割りではなく横のつながりで、いわゆる考える力が、大人も子どもも大切だと思います。デジタル社会と言われていますが、デジタル自体が駄目なものではなく、デジタルをどのように扱うのか、どのように考えるのか等、子どもが子どもである、大人が大人である子育ての計画が実現できたら良いということが願いです。2年間、ありがとうございました。

【委員】

2年間、本当にありがとうございました。私は、東京都社会福祉協議会の児童部会からの推薦で参加しました。東京都社会福祉協議会の児童部会は、児童養護施設約60施設、自立援助ホーム20施設、そのほか子どもシェルター等が所属し、毎月のように様々な課題を持って対策等を講じています。児童養護施設は退職者やメンタルの不調で休職している職員が非常に多く人材確保が大変です。

子どもたちは児童養護施設に入ってくる前に児童相談所の一時保護所に保護されますが、都の一時保護所の充足率は130%で、もう部屋がない状態で受けています。児童養護施設もほとんど満杯の状態です。そのような中では、深刻な課題を抱える子どもしか受けられず、希死念慮等がある子どもが児童養護施設に入ってくるため、ここ2、3年で数名が自殺で亡くなっています。そのような子どもが各施設数名いるため、毎日緊張感でいっぱい、職員自身がメンタルをやられて休職状態になります。途中で退職者が多く出てしまい、大変な人材不足です。途中からの採用も難しく、児童養護施設は非常に厳しい職務のためなかなか人が集まりません。宿直もあり、夜中も子どもを見ていなければならない状況の中で、職員の確保が難しいです。

区では都の児童相談所を設置し、子ども家庭支援センターもしっかりやっている中で、要保護児童対策がこれからも充実することを期待しています。いきなり要保護児童になるわけではなく、子育てや保育が充実している中では、要保護児童が少しでも減るのではないかと考えています。区の施策が、要保護児童を少し

でも減らしていくということにつながっているのではないかという点で、この会議は非常に有意義だったと思います。

皆さんのご意見は非常に参考になりました。これからの施策の中で私たちも頑張っていきたいと思っています。人材確保が一番の課題であり、その部分は皆さんと一緒に考えています。これからも保育士等になりたい方がたくさん出てくれば良いと思います。ありがとうございました。

【委員】

様々な立場の委員からお話や考えを伺い、学びの多い時間になりました。本当にありがとうございます。

私の幼稚園は園児の9割が保育園から上がってきた子です。私もお母さんを子育てに縛ろうという発想は全くありません。ただ、子どもにとって、お母さんは絶対重要だと思っています。子育て等に積極的なお父さんが増えていて、社会的にすごく良いと思います。私の園も園児の約半分はお父さんが送迎しています。

その中で私の園は父母会活動を非常に大切にしています。先ほどカメルーンの話が出ましたが、先生とお父さん、お母さんとの生け垣の中で子どもが育つ環境が園では実現できていて、私はそれがすごく大事だと思っています。お母さんもみんなそれぞれ悩み葛藤しますが、コミュニティーで救われると思います。

私のような男性陣は、子どもの心の状態を察するのが苦手だと思っています。母親の方が子どもの気持ちを察する力は高いと思います。お母さんを育児に縛ろうとは思いませんが、育児はこの世の中に存在する最高のスキルだと思います。園には育児を経験した幅広い年代の先生がいますが、女性が元から持っている排他性や養育性、共感性、気働き、察する力等は育児を通してより伸びていくような気がします。

一方で、育児をしているお父さんが増えていることはとても良いことです。私は男性が働いて女性が家のことをやるのが当たり前の時代に子育てをしていましたが、非常に後悔しています。子どもがかわいい時期と一緒に過ごした時間がとても少なく、今、写真やビデオを見てもその頃の子どもを抱き締めることはできません。その子自身を抱き締める時間を大事にして欲しいと思いますし、それを保護者の皆さんに伝えることが我々の役割や使命だと思っています。

私の母もずっと仕事をしており、女性が仕事をすることは大切なことだと思います。ただ、乳幼児期の子どもとお母さんの時間は、お母さんにとっても非常に大事です。育児が逆にお母さんを育てているのではないかと感じます。

最後に、大人の役割は、目の前にいる子どもたちのために、この区も国も良くして引き継ぐことだと思います。そういう意味では、この会議に出て、区の行政に対して意見を出し合って考えていく時間は、とても貴重で貴い時間ではないかと思っています。ありがとうございました。大変勉強になりました。

【委員】

2年間本当にありがとうございました。会議に出席し、学ぶことが多く、現役でのお父さんやお母さんが楽しそうに子育てをしていることがとても嬉しく、区の未来は明るいと思いました。

私は、民生委員と主任児童委員の代表として出席しています。主任児童委員は区に40人おり、皆さんの地域に必ず2人はいます。主にゼロから18歳までの子ども

もやその保護者が対象のボランティアですが、意外と知られていません。主任児童委員は支援が必要な子どもや保護者の支援等のお手伝いをします。

要支援の子どものお手伝いもしています。要支援になりたくてなっているわけではないのですが、保護者からよく思われておらず、悲しい目に遭ってしまう子どもを見ることもあります。先日、要支援で見ていた子の中学校の卒業式に立ち会いました。今度、小学校の卒業式にも行きます。様々なことを考えながらずっと支援しています。

皆さん民生委員が何をしているか知らないと思いますし、主任児童委員なんてたぶん名前すら知らない人もいると思います。ここで、主任児童委員について周知できたことは良かったと思います。また、主任児童委員が集まる機会にこの会議で出た皆さんの意見を伝えることができたことも良かったです。

会議で話したことが第3期計画（案）や資料に反映されて、素敵な事業があることが分かりましたが、これを区民に周知して、必要な人が事業を使うことができれば、より様々なことができるのではないかと思います。今後も主任児童委員として頑張っていきたいと思います。ありがとうございました。

【会 長】 副会長からも一言お願いします。

【副会長】 様々な議論をありがとうございました。私も大変勉強になりました。私は、区で子育てをする親でもあり、どの立場で出ればいいのか迷いながら皆さんから意見を伺えればと思い聞いていました。また、区の皆さんも丁寧にやり取りに 대응していて、インターフェースとして出てきていただいたことは良かったです。

3点お話ししたいと思います。まず、今日の会議の初めに委員から区で子育てをしている方等の意見を伝達していただきました。声を聞く時に、プッシュしていかないと意見が収集できないことを改めて認識したところです。様々な生い立ちや育ちの中で、他者が信用できない人もいるかもしれませんが、そこで意見をどのように聞いていくのかがこれから大きな課題だと思います。

一方で、良かったことは子どもの声を聞いた後に、意見をまとめて子どもたちに返せるものが作られたことです。先ほど思春期の子どものお話もありましたが、意見をして回答が返ってくることが分かると、意見をしてくれる子どもが増えると思いますし、そういう循環があれば良いと思います。また、支援している先生が大人の声や意見を代弁することや繋げていくことにもなると思いました。

最後に、この会で子どもを育てることや養育、保育などケアの大事さが改めて浮き彫りになったと思います。家庭に対して何か支援をするだけではなく、実際の声や横のつながり、その他の工夫が必要だと思います。私も養成校の中いいますが、福祉に興味を持つ学生自体が減っています。頼まれて高校訪問に行っても、先生からうちの学生は福祉に興味ないのでと簡単に言われてしまいます。高校にも様々なことをおっしゃる先生がいるかと思いますが、人と共に生きることや、ケアを考えること、それとともに地域をつくっていくことが再評価されなければならないと思います。様々な意見を聞きながら、改めて頑張ろうと思いました。

この2年間本当にありがとうございました。

【会 長】 私は会長として、この会を進行する役割を担ってきました。本日もですが、時

間がオーバーするくらい様々な視点で意見を頂戴できたことは非常に良かったと思いますし、委員の皆様が活発に意見をくださったと思っています。

私は乳幼児期の保育が専門で、大学で保育者を養成している立場です。ここには、保護者のパパ、ママもいますし、保育園、学童、幼稚園、養護施設、障害のあるお子さんを育てている方、ひとり親家庭の方、事業主の方、主任児童委員の方など多様な方が集まって、多様な視点から意見を伺うことができ、非常に学びになりました。

乳幼児期の子どもたちは、小学校、中学校、そして高校に育っていくことを見通しながら、保育を考えなければならないと感じましたし、私は、それを目指す学生を育てていかなければならないことを会議を通して強く思いました。この会議の意見が私の大学の授業の中でも大変参考になっています。保育者を目指す学生が少なくなってきたとはいえ、大学にはたくさんの学生がいて、その学生たちが多様な視点を持って保育現場に行ってくれたら良いと思っています。

最後に、子どもと過ごす毎日は本当に楽しいです。私は幼稚園教諭を経験しましたが、本当に素晴らしい仕事だと思います。パパやママも子どもといることがとても幸せだという意見がこの会議でも多く出たと思います。子どもをどう育てていきたいか、子どもとどう過ごしていきたいか、どんな社会にしていきたいかという哲学の部分が語られました。それだけでなく、具体的な取組も両輪で話されたところが大変良かったと思いますし、区でも拾って施策へ繋げていると感じています。この会議が重要であると感じ、2年間を過ごしました。委員の皆様にご心より感謝申し上げます。ありがとうございました。

それでは最後に、事務局より挨拶をお願いします。

#### 【事務局】

子ども・子育て会議の委員の皆様には、2年間にわたり、毎回活発な意見交換を行っていただき、本当にありがとうございました。今期は、第3期練馬区子ども・子育て支援事業計画の策定に当たり、妊娠・出産期から在宅子育て期、乳児期から幼児期、学齢期以降と各年代の子どもと子育てに関することに加え、支援を必要とする子どもや家庭への取組など、毎回テーマを掲げ、活発なご議論をいただきました。この2年間、皆様からいただいたご意見等を踏まえ、本日、計画（案）をお示しすることができたことを改めて御礼申し上げます。

第3期計画には、様々な事業を掲載しました。その中から、今後5年間のリーディングプロジェクトを新たにお示しさせていただいたところです。本日も、ご意見をいただきましたが、保育所待機児童ゼロの継続、また、新規事業である子ども誰でも通園事業の令和8年度からの本格実施、加えて、会議でも様々なご意見をいただきました、子どもの多様な体験機会の確保が子どものその後の成長に非常に重要であること、さらに、児童養護施設や里親等の手を離れた社会的養護経験者の若者への新たな自立支援を第3期計画のリーディングプロジェクトとして位置づけました。こうした取組を着実に進めることが、今回の計画の特徴だと考えています。

一方で、本日もご議論いただきました保育サービス水準の向上、また人材確保に向けた取組、学童クラブの待機児童対策等は引き続き重要な課題だと認識して

います。支援を必要とする障害児や医療的ケアが必要な子どもたちへの支援についても、引き続き区として着実に取り組んでいかなければなりません。

第3期計画には、「子どもたちの笑顔輝くまちプラン」というサブタイトルをつけさせていただきました。本日も、もっと区に頑張ってもらいたいという激励の言葉や、しっかりやっているところもあるという嬉しいご発言をいただきました。この計画を実りあるものにするのが、区民の方に一番身近な自治体である区の、私ども行政の責務であると考えています。子どもを安心して産み育てられ、子どもたちが健やかに成長できるよう、引き続き、本会議の委員を離れましても、区にお力添えをいただければと思います。

最後に、子ども・子育て会議を毎回円滑に進行していただき、実りのある会にさせていただきました会長と副会長に改めて感謝を申し上げるとともに、貴重なご意見をいただきました皆様に重ねて感謝申し上げて、今期最後のご挨拶とさせていただきます。この2年間ご協力いただきありがとうございました。

【会 長】 そのほか、事務局から連絡事項はありますか。

【事務局】 2年間、様々なご意見をいただきありがとうございました。施策を検討する際にも皆様からのご意見を参考にさせていただき、第3期計画（案）を取りまとめることができました。計画について、今月成案とし、4月に区報や区ホームページで区民の皆様へ周知をさせていただきます。

【会 長】 以上をもちまして、今期の子ども・子育て会議を閉会いたします。  
ありがとうございました。